

2015年12月期 決算説明資料

株式会社RS Technologies
東証マザーズ：3445

注意事項

- 当該資料に記載された内容は、一般的に認識されている経済情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営を取りまく様々な環境の変化により、予告なしに変更される可能性がございます。
- 本発表において提供される資料ならびに情報の中には「見通し情報」が含まれております。これらの情報は、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実際には異なる結果となる不確実性を含んでおります。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。
- 資料中で「生産能力」についての記載は、全て当社グループの“300mm再生ウェーハ”の能力を指しております。

目次

2015年12月期決算情報	P. 4- 9
中・長期的な経営方針	P.10-18
参考資料	P.19-28

2015年12月期決算情報

2015年12月期決算情報 ☆ サマリー ☆

第1, 2, 3四半期とおおむね事業計画の進捗通り業績は推移しており、通期では三本木工場の増産寄与により営業利益・経常利益は計画達成。台湾子会社の稼働が遅れた影響で当初計画した税効果会計を適用できず、当期利益は未達。

単位：百万円

	2015年12月期 (2015年1~12月)	2014年12月期 (2014年1~12月)	前期比	2015年12月期 当初事業計画 (2015年1~12月)	達成率
売上高	5,545	4,566	121.4%	5,486	101.1%
営業利益	1,081	1,166	92.7%	927	116.6%
営業利益率	19.5%	25.5%	▲6.0pt	16.9%	-
経常利益	937	1,247	75.2%	849	110.5%
経常利益率	16.9%	27.3%	▲10.4pt	15.5%	-
当期(四半期) 純利益	304	664	45.8%	420	72.4%

2015年12月期決算情報 ☆ 会社別 ☆

■ 台湾子会社(台湾)において、当初計画対比で本格稼働が遅延し、人件費・減価償却費等の固定費を吸収できず損失を計上。

■ RS Tec(日本)では、生産能力増強により、4期連続して増収増益を達成。台湾子会社の損失をカバー。

単位：百万円

	RS Tec (日本)	台湾子会社 (台湾)	連結消去	連結合計
売上高	5,752	9	▲216	5,545
営業利益	1,425	▲237	▲106	1,081
営業利益率	24.8%	-%		19.5%
経常利益	1,364	▲303	▲123	937
経常利益率	23.7%	-%		16.9%
当期(四半期) 純利益	801	▲321	▲176	304

台湾子会社遅延の要因サマリー

要因①：三本木先端設備投資に係る補助金
交付決定監査の遅れによる移設の遅延
(2015/6予定が、2015/9実施。)

要因②：顧客による工場認定スケジュールの
遅延
(2015/7予定が、現在実施中。)

2015年12月期決算情報 — 連結損益計算書 —

【当年度業績のポイント】

前期との比較を中心にコメント

売上高

出荷枚数増、円安、他事業寄与により増収。

売上原価

日本…新設・移設時のオーバーラップした費用。
台湾…11月からのテスト稼働時の費用発生。

販売費・一般管理費

台湾で173 (百万円) 計上。

営業外損益

日本、台湾の有利子負債に係る利息 (日本46百万円と台湾32百万円)。

台湾の外貨建て債務の為替洗替により評価損計上 (50百万円)。

法人税等

日本で384 (百万円) 計上。
台湾で115 (百万円) 相当分の税効果を適用できず。結果、当期利益は未達。

単位：百万円

	2015年12月期		2014年12月期	
	年間 (2015年1~12月)	年間 (2014年1~12月)	比較増減	
売上高	5,545	4,566	979	121.4%
売上原価	3,673	2,746	927	133.8%
販売費・一般管理費	791	653	138	121.1%
営業利益	1,081	1,166	△ 85	92.7%
(%)	19.5%	25.5%	-6.0%	
営業外損益	△ 143	82	△ 225	-
経常利益	937	1,247	△ 310	75.1%
(%)	16.9%	27.3%	-10.4%	
特別損益	△ 249	△ 19	△ 230	-
税引前当期利益	688	1,228	△ 540	56.0%
法人税等	384	564	△ 180	68.1%
当期利益	304	664	△ 360	45.8%
(%)	5.5%	14.5%	-9.1%	

2015年12月期決算情報 — 連結貸借対照表 —

単位：百万円

	2015年度 年度末	2014年度 年度末	比較増減
資産の部			
現金及び預金	1,842	1,190	652
売上債権	970	697	273
たな卸資産	616	524	92
その他流動資産	464	349	115
有形固定資産	5,667	3,918	1,749
無形固定資産	29	15	14
その他固定資産	149	130	19
資産合計	9,737	6,824	2,913
負債の部			
支払手形及び買掛金	186	151	35
短期借入金	353	483	△ 130
1年内返済長期借入金	863	344	519
長期借入金	4,080	2,926	1,154
その他流動負債	893	1,315	△ 422
その他固定負債	718	9	709
計	7,093	5,228	1,865
純資産の部			
資本金	616	199	417
資本剰余金	616	199	417
利益剰余金	1,418	1,114	304
その他	△ 7	84	△ 91
計	2,644	1,596	1,048
負債・純資産合計	9,737	6,824	2,913

【主要科目のポイント】

■有形固定資産

増加。三本木工場に最新の設備を導入。本年6月より稼働。また、台湾子会社でも既に取得は終えて、稼働開始。

■有利子負債

（短期借入金、1年内返済長期借入金、長期借入金）

増加。先端設備投資に係る借入実行済み。当第3四半期補助金（入金額2,443百万円）入金後に、2,732百万円返済。

中・長期的な経営方針

2016年度中期計画の概要

単位：百万円

会計年度	2016/12 (計画)	2017/12 (計画)	2018/12 (計画)
売上高	7,031	8,292	8,338
営業利益	1,464	2,191	2,186
当期純利益	986	1,578	1,588

【前提】（2016年度～2018年度）

為替

120 円/USドル

3.75円/台湾ドル

※為替は、当社取締役会決議時点でのレートを採用。

2016年度中期計画 前回発表比較

単位：百万円

	2016/12			2017/12			2018/12
	今回発表 数値	前回発表 数値	計画差異	今回発表 数値	前回発表 数値	計画差異	今回発表数値
売上高	7,031	7,276	▲245	8,292	7,442	849	8,338
営業利益	1,464	1,820	▲355	2,191	1,912	177	2,186
当期純利益	986	1,263	▲277	1,578	1,324	196	1,588

（2016年度事業計画の前提）

日本は生産能力18万枚のフル稼働で計画。
台湾子会社の稼働率は前回95%で予算化していたが、
今回は通期で50%に修正。

（2017年度事業計画の前提）

2017年度には日本・台湾ともにフル稼働を目標。

中・長期的な経営方針

- ①台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大
- ②再生市場での当社のシェア拡大
- ③伸長する需要の取込み
- ④潜在的な再生市場の開拓
- ⑤中国半導体マーケットへの参入

13

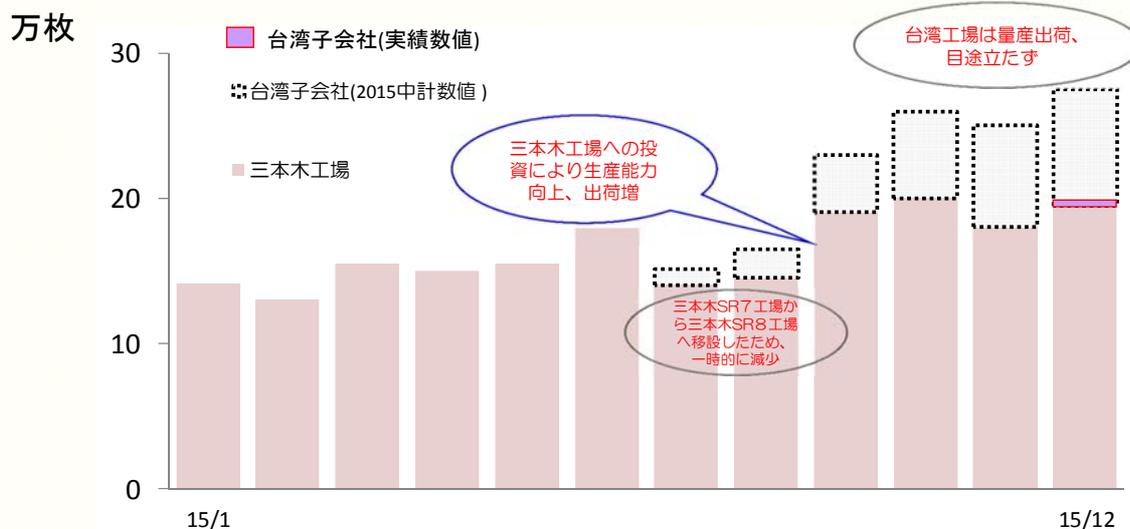
12. Feb. 2016



「台湾子会社および三本木工場の出荷時期」

～台湾子会社と三本木工場300mmウェーハ出荷枚数推移～

●前期の結果●



2015/1～2015/12は実績の出荷枚数

台湾子会社は一部稼働開始した設備もあり、費用が先行して発生しておりますが、顧客の認定待ちにより量産出荷の時期は未確定となります。時期が明確になりましたら適時開示いたします。

14

12. Feb. 2016

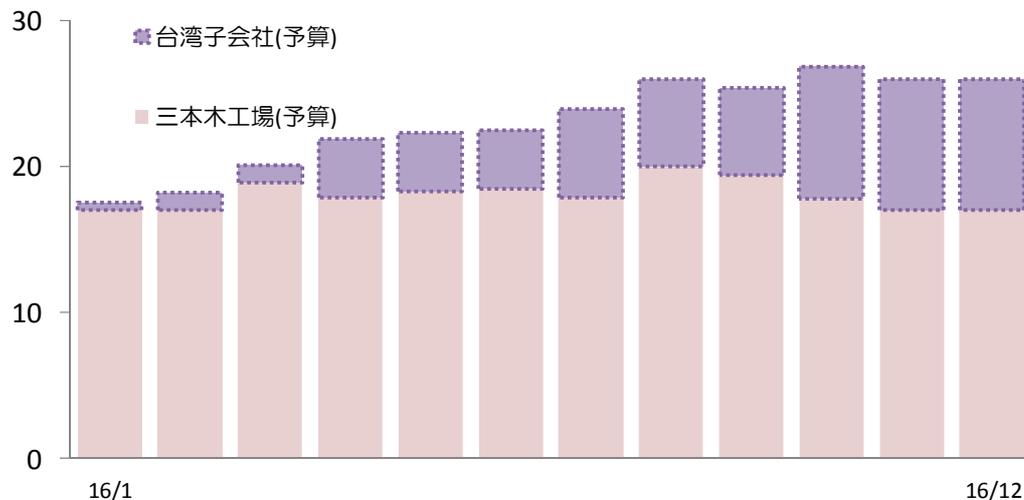


「台湾子会社および三本木工場の出荷時期」

～台湾子会社と三本木工場300mmウェーハ出荷枚数推移～

●2016年予算の前提●

万枚



事業計画の出荷枚数を記載。

三本木工場は18万枚の生産能力をベースに、同程度の出荷枚数で予算化しております。

台湾子会社は主要顧客の出荷時期が未定であります。台湾国内の他顧客の需要動向を見極めて、上図のように出荷を見込んでおります。

中・長期的な経営方針

①台湾子会社新設・三本木工場増設による生産力拡大

②再生市場での当社のシェア拡大

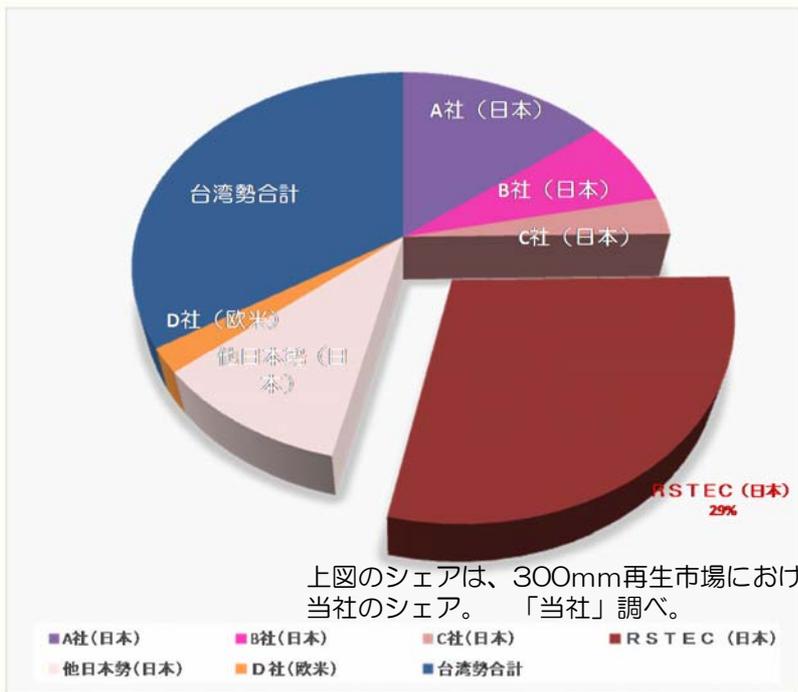
●今回のトピックス●

③伸長する需要の取込み

④潜在的な再生市場の開拓

⑤中国半導体マーケットへの参入

「再生市場での当社のシェア拡大」



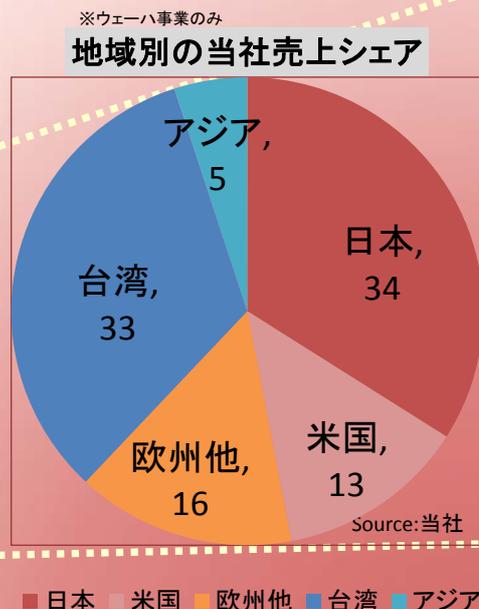
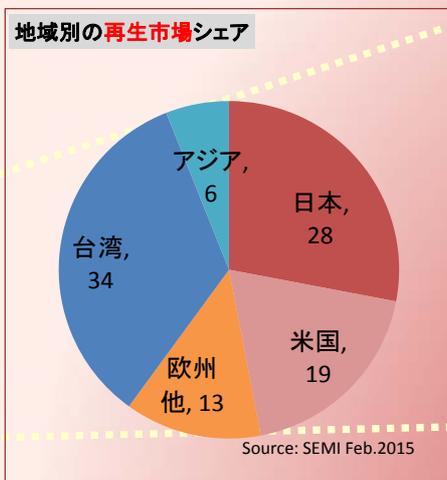
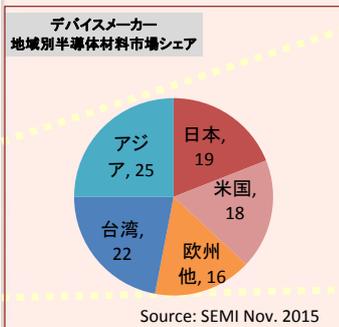
台湾の新設・三本木の増設により、生産能力があがり、生産能力ベースではシェアは29%まで上昇。

既存設備の収率（歩留り）向上、三本木工場の空工場利用、台湾移設設備の有効活用と業務提携・M&A等の手法を用いて

中期的に40%のシェアを目標。

「半導体市場」、「再生市場」および当社の地域別シェア

前提：
当社は、グローバル展開の方針の元、半導体前工程メーカーからの需要を適宜把握し、当社の生産能力を最適化してきた。



今後は、台湾・アジア顧客からの旺盛な需要には、台湾子会社の生産能力でカバーできるよう本格稼働開始を進め、三本木工場の空いた生産能力は世界中の既存・新規顧客の需要に対応。

ご参考

台湾南部地震の影響について

2016年2月6日朝5時ごろ（日本時間）に、台湾南部で
広範囲の地震が発生しました。
台湾南部は、当社の連結子会社である
艾爾斯半導體股份有限公司の工場もありましたが、
幸いにも影響は軽微でありました。

人的被害・・・被害はありませんでした。

物的被害・・・被害はありませんでした。

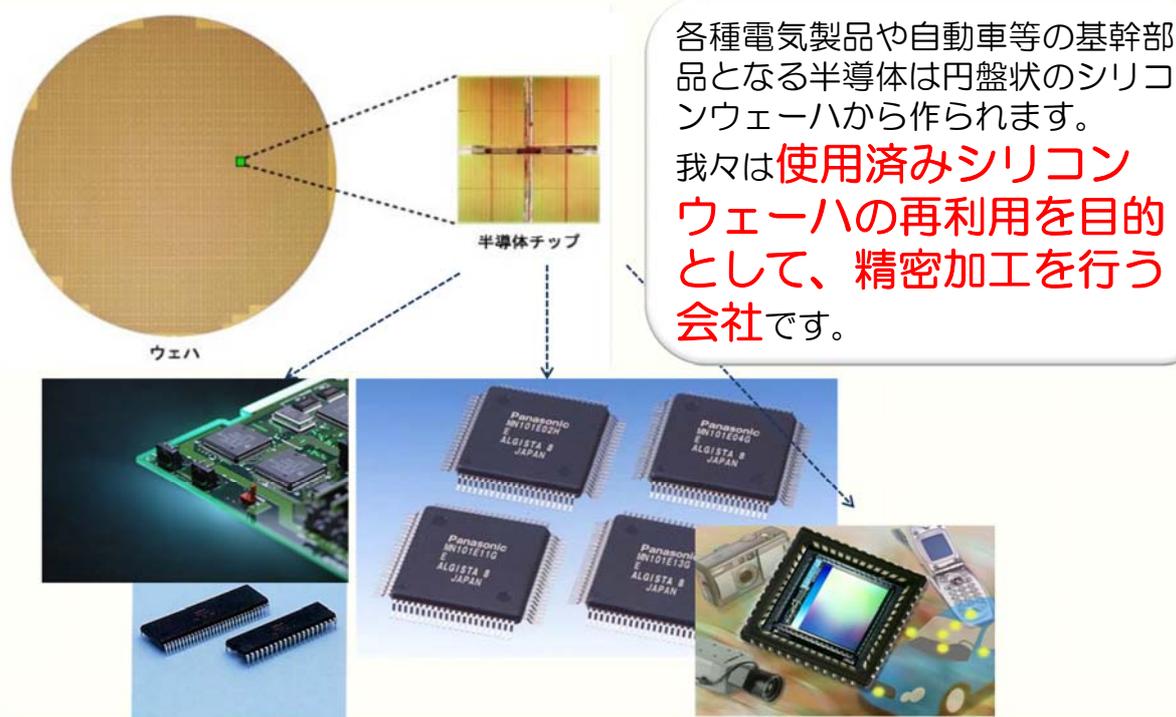


今回の地震で被害にあわれた方々、お亡くなりになられた沢山の方々へ謹
んでお悔やみ申し上げます。

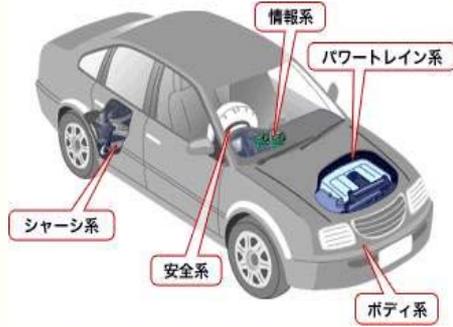
会社概要

社名	株式会社 RS Technologies
本社	東京都品川区大井1-23-1 カクタビル 4F
三本木工場	宮城県大崎市三本木音無字山崎26-2
台南工場	No.1 Nanke 7th Rd., Southern Taiwan Science Park, Tainan City 74144 Taiwan
経営理念	「地球環境を大切にし、世界の人々に信頼され、常に創造し挑戦する。」
資本金	61,645万円（2015年12月31日時点）
取締役	方永義、鈴木正行、本郷邦夫、近藤淳行 石黒正亨、李宗根、渡邊泰紀、内海忠
設立	2010年12月10日
操業開始	2011年1月1日
事業内容	半導体用シリコンウェーハの再生、加工、販売、 ソーラー売電、 半導体製造設備・半導体部材（ターゲット材）販売

シリコンウェーハ再生事業-半導体とウェーハ



シリコンウェーハ再生事業-半導体の用途



スマホ・タブレット
 ・ウェアラブル・自動運転
 ・家・ビル・町・M2M・・・etc



世界の半導体の需要は

- ★ 世界の人口増
- ★ 新興国の経済発展
- ★ 先進国のデバイス用途の多様化

により拡大

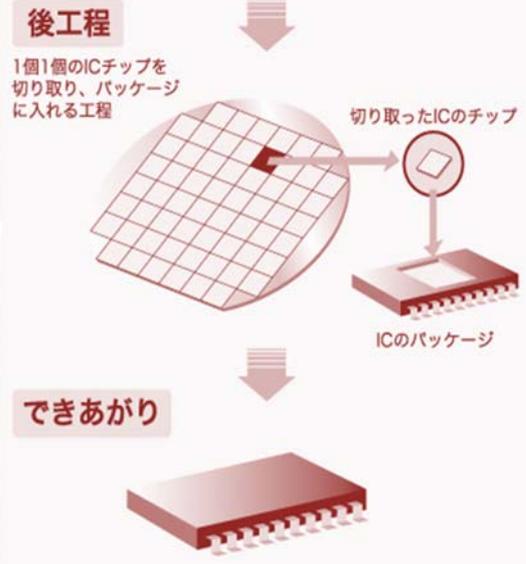


シリコンウェーハ再生事業-半導体製造概要

半導体製造のおおまかな流れ



半導体メーカー

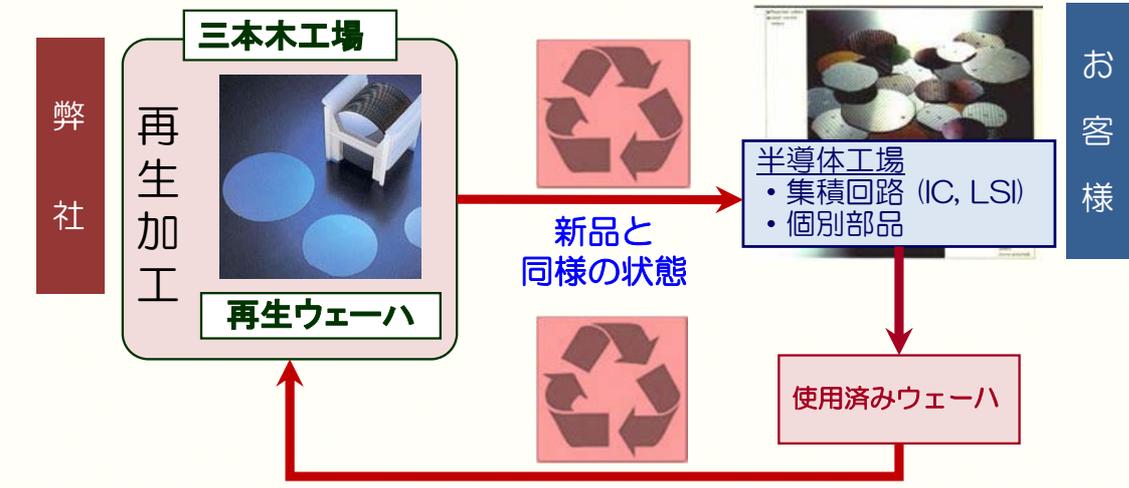


当社の再生ウェーハが大量に使用されます。

シリコンウェーハ再生事業-再生とは？

半導体工場では700を超える工程がありますが、各工程のプロセス評価、出来栄への評価のために『モニターウェーハ』が使用されます。これらのモニターウェーハは、1回～数回使用されると使用不可となりますが、弊社は、これらのウェーハをお預かりし、精密加工をすることで再利用が可能な新品と同様の状態に戻し、同じ用途で使用していただくサービスを提供しております。

再生ウェーハはシリコンウェーハ全使用量に対し、約21%の需要があります。
(SEMI 2012実績)



25

12. Feb. 2016



シリコンウェーハ再生事業-なぜ再生が必要か？

◇◇ なぜ再生ウェーハの需要があるのか？ ◇◇

◎一番の目的は、お客様の**コストダウン**のためです。



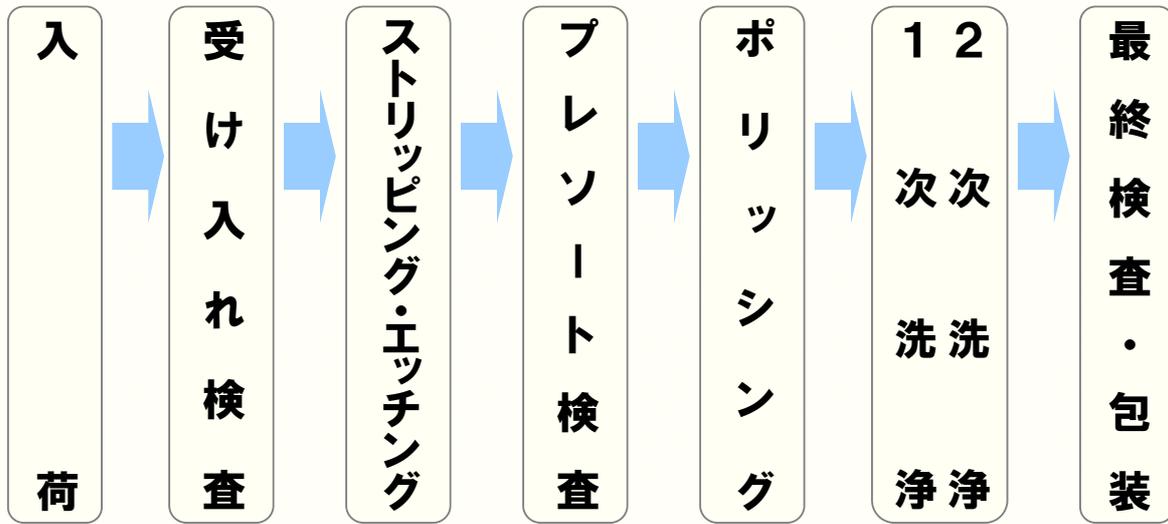
※環境負荷を減らすという目的もあります。

26

12. Feb. 2016



シリコンウェーハ再生事業-工程概要

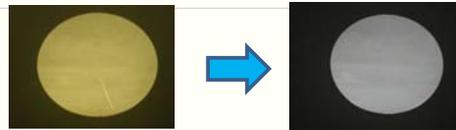


シリコンウェーハ再生事業 工程概要と 当社の強み



・強み①(すべての膜を剥離可能)
ケミカルによる除去の為、表面のダメージが最小限に→「再生回数が多い」→よりコストダウンが可能に。

★ラサ工業(化学)の特異技術を承継



・表面に付いているキズや凹凸を研磨(ポリッシング)により平滑にする



・強み②(金属不純物を除去)
ウェーハ表面の微細ゴミ、汚れ、を洗浄で取り除く
+ 金属不純物の除去
特に銅 (Cu) の汚染除去に強み

